

視察・研修報告書

視察・研修先	如何にして議会改革を進めるのか？
日 時	令和7年11月22日（土） 14：00～17：30
場 所	大野城まどかぴあ
テーマ	大津市議会のキセキ～「奇跡」と「軌跡」
対応者 （講師）	輝け議会！対話による地方議会活性化フォーラム 清水 克士氏（滋賀県前大津市議会局長） 神吉 信之氏（ローカルマニフェスト推進ネットワーク九州代表）
概 要	
1 大津市議会の議会改革についての講演 滋賀県大津市議会は、現在までに様々な「議会改革」を行ってきた。その時の議会事務局の局長であった「清水克士氏」による、議会改革の事例とその経緯と取組について聞かせていただいた。 （主な内容） ・ 議会の政策立案機能の強化 平成28年4月から、龍谷大学図書館の学術情報資料やレファレンス機能を、大津市議会の議員と事務局が利用できるようになった。地方議会が大学図書館と連携して議会図書館機能を強化するのは全国初である。この取組により、政策立案機能の向上や議会図書館の充実がさらに進んでいる。 ・ 議会審議の活性化 議会意思決定条例を制定した。議会は合議制機関であるため、意思決定には時間を要する。従来はほとんど本会議で決定していたが、市民ニーズの迅速な対応や行政の効率化を図るため、実情に合わせて「議決」「議長による決定」「議会運営委員会での決定」の三段階に分類し、意思決定が円滑に行えるよう平成28年9月に条例化した。 ・ 議会活動の透明性向上の方策 4年間の議員任期の最終年に、議会活動を振りかえるために「議会活動評価」を行っている。評価方法として・・・ 「一次評価＝議員個人による評価」 「二次評価＝会派による評価」 「議会運営委員会による調整・方向性の決定」 上記のほか、「議案審査・調査」「議会の機能強化」「政策立案・提言」「広報広聴」についても評価を行い、大学教授や外部識者による検証も依頼した。これらの評価結果を基に、今期の課題と次期議会に向けた方針を整理し、議長からのメッセージ（申し送り）としてまとめた。 2 「議会改革の課題についてディスカッション」 参加議員を4名ごとのグループに分け、各々が必要であるとする「議会改革」を	

話し合った。

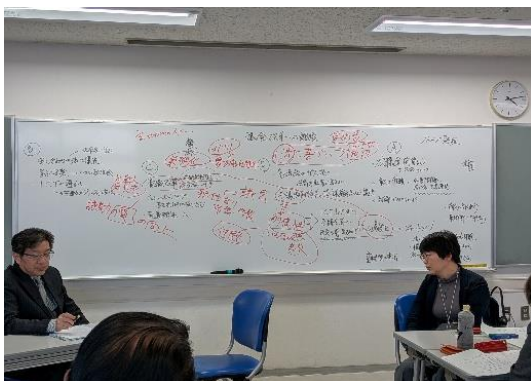
(主な内容)

- 「議会として公聴会を実施していない課題について」
市民から信頼されるよう、外部評価を受けられる環境づくりを進めてはどうか。
- 「ICTの活用が遅れている点について」
少しずつ可能なところから始め、執行部（役所側）や市民を巻き込みながら推進してみてもどうか。
- 「議員個人の問題意識の欠如（意識改革必要）に対して」
小さな勉強会を実施し「学ぶ姿勢」を身に付け、議員の質の向上を議会として進める。
- 「議会の合議制が弱い課題について」
討論の機会を増やし、議論が活発に行われる仕組みを整備することが重要である。

所 感

講演では、元大津市議会事務局長から、大津市議会で行われた様々な議会改革の事例をご紹介いただきました。内容を聞く中で、多岐にわたる改革の実績に非常に興味を持ちました。議会として提起された改革が、マニフェスト大賞をはじめとする多くの成果につながっているのは、議会だけの力ではなく、議会事務局の大きな支えと、議員一人ひとりが改革意識を高めたことの賜物だと感じます。

本市の議会では、「議員からの気づき」はあっても、そこから実際に「改革」まではなかなか実行出来ないのが現実であります。議会改革は、議員一人ひとりの意識改革から始まるものであり、まずは私自身の意識改革に取り組む必要があると強く感じました。



—作成者 河村 康之—